



貧血

知っておきたい
漢方4処方



肩こり、
冷え症、
めまい※



筋肉が一体に軟弱で疲労しやすく、
腰脚の冷えやすいものの次の諸症

**貧血、倦怠感、更年期障害、
月経不順、妊娠中の諸病に**

23 ツムラ当帰芍薬散
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)



精神不安、
顔色が悪い、
心悸亢進※

虚弱体質で血色の悪い人の次の諸症

貧血、不眠症、神経症に

137 ツムラ加味帰脾湯
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)



顔色不良、
病後術後、盗汗、
口内乾燥感※



貧血、病後の体力低下、食欲不振に

48 ツムラ十全大補湯
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)



疲労衰弱、
顔色不良、微熱、
悪寒、咳嗽※

貧血、病後の体力低下、手足の冷えに

108 ツムラ人參養榮湯
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)

※(参考(使用目標=証)) 監修:大塚恭男、花輪壽彦(裏面参照)

ツムラ当帰芍薬散エキス顆粒(医療用)

効能又は効果
筋肉が一体に軟弱で疲労しやすく、腰脚の冷えやすいものの次の諸症:
貧血、倦怠感、更年期障害(頭暈、頭痛、めまい、肩こり等)、月経不順、月経困難、不妊症、動悸、慢性腎炎、妊娠中の諸病(浮腫、習慣性流産、痔、腹痛)、脚気、半身不随、心臓弁膜症

〈参考:証に関わる情報〉 使用目標=証*
比較的体力の低下した成人女子に用いられることが多く、一般に冷え症で貧血傾向があり、性周期に伴って軽度の浮腫、腹痛などを呈する場合に用いる。
1) 全身倦怠感、四肢冷感、頭痛、めまい、耳鳴、肩こり、心悸亢進などの症状を訴える場合。
2) 無月経、過多月経、月経困難など、月経異常のある婦人。

ツムラ十全大補湯エキス顆粒(医療用)

効能又は効果
病後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振、ねあせ、手足の冷え、貧血
〈参考:証に関わる情報〉 使用目標=証*
病後、術後あるいは慢性疾患、高齢者の虚弱(フレイル)などで、疲労衰弱している場合に用いる。
1) 全身倦怠感、食欲不振、顔色不良、皮膚枯槁、貧血などを伴うことが多い。
2) 盗汗、口内乾燥感などを伴う場合。

使用上の注意
1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1) 著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、下痢等があらわれることがある。] (2) 食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 2. 重要な基本的注意 (1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

ツムラ人参養栄湯エキス顆粒(医療用)

効能又は効果
病後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振、ねあせ、手足の冷え、貧血
〈参考:証に関わる情報〉 使用目標=証*
病後・術後あるいは慢性疾患、高齢者の虚弱(フレイル)などで疲労衰弱している場合に用いる。
1) 全身倦怠感、顔色不良、食欲不振などを伴うことが多い。
2) 慢性疾患で、微熱、寒熱、咳嗽などを伴う場合。

使用上の注意
1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1) 著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、下痢等があらわれることがある。] (2) 食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 2. 重要な基本的注意 (1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

ツムラ加味帰脾湯エキス顆粒(医療用)

効能又は効果
虚弱体質で血色の悪い人の次の諸症:
貧血、不眠症、精神不安、神経症
〈参考:証に関わる情報〉 使用目標=証*
体質虚弱な人が、顔色が悪く貧血気味で、精神不安、心悸亢進、不眠などの精神神経症状を訴え、微熱のある場合に用いる。
1) 下血、吐血、鼻出血などを伴う場合。
2) 盗汗、全身倦怠感、食欲不振などを伴う場合。

使用上の注意
1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) 食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 2. 重要な基本的注意 (1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3) サンジ含有製剤の長期投与(多くは5年以上)により、大腸の色調異常、浮腫、びらん、潰瘍、狹窄を伴う腸間膜静脈硬化症があらわれるおそれがある。長期投与する場合には、定期的にCT、大腸内視鏡等の検査を行うことが望ましい。(4) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

※使用目標=証 監修:大塚恭男、花輪壽彦(北里大学)

■ 用法及び用量:通常、成人1日7.5gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。※(TJ-108は1日9.0g)
■ 日本標準商品分類番号:875200 ■ 薬効分類名:漢方製剤 ■ 取扱い上の注意:(貯法)しゃ光・気密容器/(使用期限)容器、外箱に表示
■ 製造販売会社:株式会社ツムラ
・ 組成・性状、包装、関連情報(承認番号、承認年月、薬価基準収載年月、販売開始年月等)については製品添付文書をご覧ください。「使用上の注意」等の改訂には十分ご留意下さい。

(2015年5月制作)
(2019年7月改訂)

PSD022 (審)

使用上の注意
1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1) 著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢等があらわれることがある。] (2) 食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 2. 重要な基本的注意 (1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。
3. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。
過敏症^{注1)} 発疹、痒疹等
肝臓 肝機能異常(AST(GOT)、ALT(GPT)等の上昇)
消化器 食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢等

4. 高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。 5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。 6. 小児等への投与 小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]

(2014年10月改訂)

3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

| 薬剤名等 | 臨床症状・措置方法 | 機序・危険因子 |
|---|---|---|
| (1) カンゾウ含有製剤 (2) グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤 | 偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。〔重大な副作用の項参照〕 | グリチルリチン酸は尿管管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。 |

4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1) 重大な副作用 1) 偽アルドステロン症:低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2) ミオパチー:低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。3) 肝機能障害、黄疸:AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTPの上昇を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
(2) その他の副作用

過敏症^{注1)} 発疹、発赤、痒疹、尋麻疹等
消化器 食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、下痢等
注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
5. 高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。 6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。 7. 小児等への投与 小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない] 8. その他の注意 湿疹、皮膚炎等が悪化することがある。(2014年10月改訂)

3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

| 薬剤名等 | 臨床症状・措置方法 | 機序・危険因子 |
|---|---|---|
| (1) カンゾウ含有製剤 (2) グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤 | 偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。〔重大な副作用の項参照〕 | グリチルリチン酸は尿管管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。 |

4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1) 重大な副作用 1) 偽アルドステロン症:低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2) ミオパチー:低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。3) 肝機能障害、黄疸:AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTPの上昇を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
(2) その他の副作用

過敏症^{注1)} 発疹、発赤、痒疹、尋麻疹等
消化器 食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢等
注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
5. 高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。 6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。 7. 小児等への投与 小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない] 8. 臨床検査結果に及ぼす影響 本剤の投与により、血中AG(1.5-アンピロロ-D-グルタミン)が増加する場合があります。 9. その他の注意 湿疹、皮膚炎等が悪化することがある。(2013年3月改訂)

3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

| 薬剤名等 | 臨床症状・措置方法 | 機序・危険因子 |
|---|---|---|
| (1) カンゾウ含有製剤 (2) グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤 | 偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。〔重大な副作用の項参照〕 | グリチルリチン酸は尿管管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。 |

4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1) 重大な副作用 1) 偽アルドステロン症:低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2) ミオパチー:低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。3) 腸間膜静脈硬化症:長期投与により、腸間膜静脈硬化症があらわれることがある。腹痛、下痢、便秘、腹部膨満等が繰り返された場合、又は便潜血陽性になった場合には投与を中止し、CT、大腸内視鏡等の検査を実施するとともに、適切な処置を行うこと。なお、腸管切除術に至った症例も報告されている。
(2) その他の副作用

過敏症^{注1)} 発疹、尋麻疹等
消化器 食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、下痢等
注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
5. 高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。 6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。 7. 小児等への投与 小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない] 8. 臨床検査結果に及ぼす影響 本剤の投与により、血中AG(1.5-アンピロロ-D-グルタミン)が増加する場合があります。 9. その他の注意 湿疹、皮膚炎等が悪化することがある。(2018年2月改訂)